

組織目標評価報告書（平成23年度）

部局名：アドミッションセンター

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	自己評価
①-1 目標	
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
②研究領域	自己評価
②-1 目標 入試の在り方と改善に関する次の調査・研究を行い、入試の改善を検討する。 1. 入学者選抜方法の分析と妥当性の調査を行う。 2. TOEIC-IPテストを、入学時に受験した学生の追跡調査(入試時の成績、在学時の成績)を行う。	入試の在り方と改善に関する次の調査・研究を行い、入試改善のために検討した。 1. 入学者選抜方法及卒業時の成績との相関関係を分析し、各学部の入試改善のために、情報を提供した。 2. TOEIC-IPテストを、入学時に受験した学生の追跡調査(入試時の成績、在学時の成績)を行い、相関関係を分析し、各学部の入試改善のために、情報を提供した。
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
③センター業務領域	自己評価
③-1 目標 1. 入試ミスの防止 出題等の入試ミス防止策を検証し、再発防止策を再検討する。 2. 優秀な学生の確保 前年度に収集した、全学、および各学部のディプロマ・ポリシーに基づいて、全学のアドミッション・ポリシーを策定する。 本学が求める資質を持った入学者の獲得のために、前年度の広報戦略を踏まえて、新たな広報戦略を展開する。 3. 学部入学制度の改善 前年度から検討している、学部入試制度(AO入試、推薦入試)の見直しを行い、受験生等にわかりやすい入試制度を目指す。 国際バカロレア入試を実施し、合格後の入学前教育を踏まえて、秋期入学制度の問題点を検討する。 総合入試(募集単位の拡大)制度は、前年度に実施した調査結果を、分析し検討する。 平成27年度入試からの新指導要領に基づく入試について、センター試験の利用科目の決定、個別試験科目等の決定を行い告知する。 4. 大学院入試制度の改善 前年度に実施した大学院入試WGの情報を分析し、入学者選抜方法及び広報を見直し改善検討する。	1. 入試ミスの防止 出題等の入試ミス防止策を検証し、入試ミスが起こらない体制を検討し、問題作成、入試実施等の諸会議で注意喚起を行った。また、入試当日は、各試験会場を視察し、注意喚起した。 2. 優秀な学生の確保 全学のアドミッションポリシーを学士課程教育構築WGと意見交換しつつ策定した。また、各学部のアドミッションポリシーとの整合性を図った。そして、次年度に公開するための周知方法、媒体(募集要項等)を検討し準備を進めている。 3. 学部入学制度の改善 各学部とともに入試制度の見直しを図り、検討した結果、AO入試、推薦入試及び前期・後期日程試験の、廃止存続を決定した。また、次年度以降、引き続き検討を重ねることとした。 総合入試制度は、他大学の動向、高校現場からアンケート結果及び各学部の意見を考慮した結果、早急に実施するのではなく、世情の状況をみながら、継続的に審議することとなった。 国際バカロレア入試を実施し、合格者に入学前教育(科目等履修生)を受講してもらい、秋季入学実施のための、情報を収集した。 平成27年度入試からの新指導要領に基づく入試について、センター試験の利用教科科目の決定、個別試験科目等の決定を行い告知した。
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標	4. 大学院入試制度の改善 大学院入試WGを開催し、入学者選抜方法の改善等を検討した。 また、このWGと入試広報WGから提案があった、広報活動についても検討し、大学案内で、学部と研究科の繋がりをよりわかりやすく表記することや、各研究科が単独で広報していた入試情報を集約した、総合ポスターを準備している。
④社会貢献(診療を含む)領域	自己評価
④-1 目標	
④-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
【総括記述欄】	
<p>本年度の目標をおおむね達成したことにより、本学の入試実施体制及び入試制度をさらに、改善させることができた。特に、一般入試前期日程を中心に、この10年で3番目に多い志願者数を集め、優秀な学生の確保ができた。次年度も、入試実施体制及び入試制度の改善のために、さらに各学部及び各研究科と協力することが課題である。特に、研究科の広報活動を強化して行きたい。</p>	